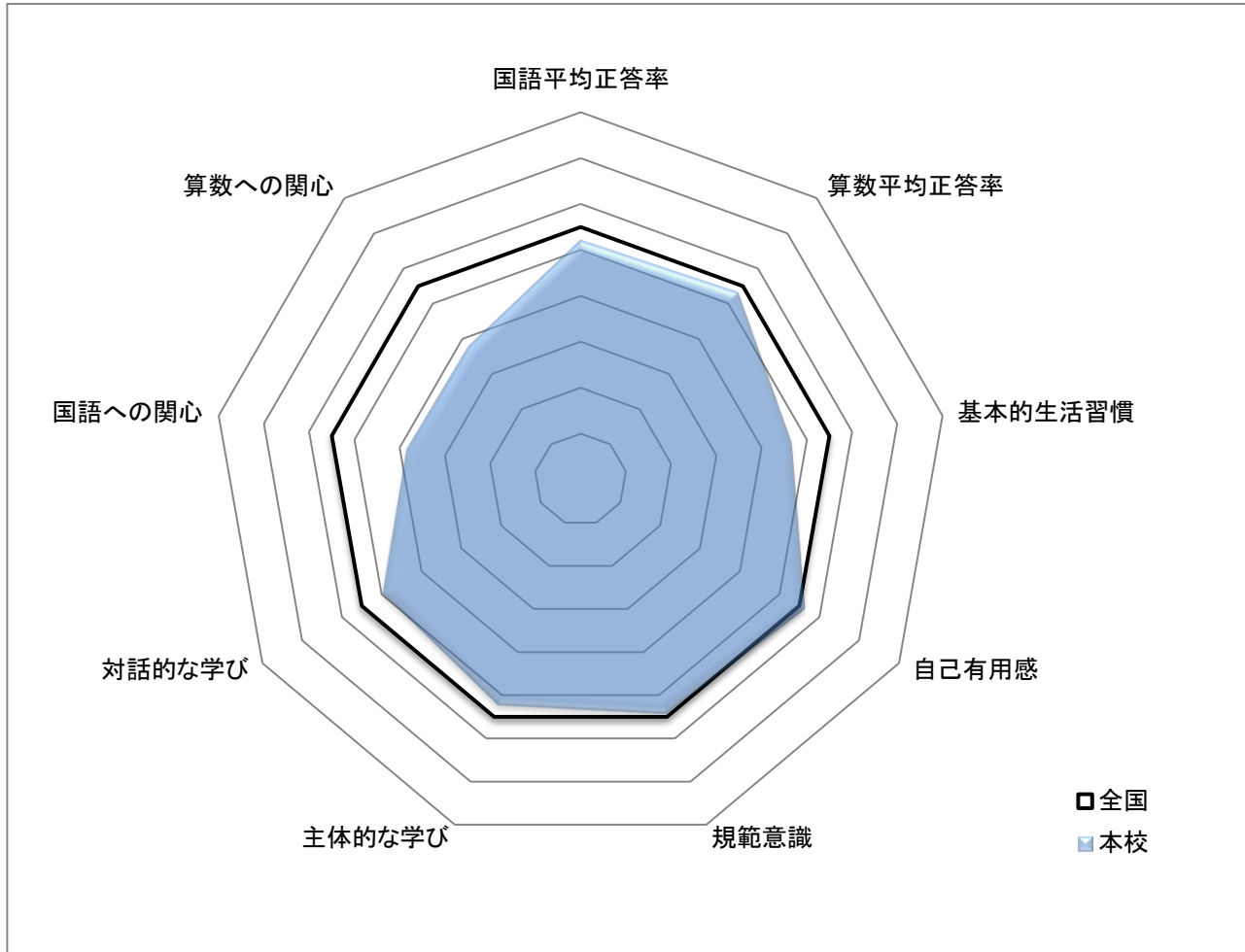


●各領域における、全国平均正答率及び、全国の肯定的回答合計値を基準とした場合の、本校の様子。



《現状把握》

・国語も算数も平均正答率が全国平均を下回った。国語は、特に「読むこと」に関する問題の正答率が低く、説明文の内容を正しく読み取ったり、物語に登場する人物の心情を考えたりすることに課題があると考えられる。算数は、「図形」や「測定」に関する問題の正答率が低く、定着が十分とは言えない現状であると捉えている。

・基本的生活習慣や、国語・算数に対する関心が全国平均よりも低いということから、規則正しい生活習慣を心掛け、学習習慣も身に付けていく必要があると考えられる。

《授業改善のポイント》

＜国語＞

- ・読解する際に様々な文章に触れる中で、主語と述語の役割を理解しながら読み進めたり、繰り返し関係を捉える練習をしたりすることで、文の構造への興味関心を高めさせていく。
- ・読書科の時間も活用し、多くの物語に触れる機会を設ける。

＜算数＞

- ・実物、模型、デジタル教材などを効果的に活用し、知識だけでなく、視覚的に体験的に理解を深める活動を設定し、立体図形の見方を養う。

《チャートの特徴》

今年度の学力調査の結果、国語は3.8%、算数は2%全国の平均正答率を下回った。基礎的学力や知識の定着が弱い部分があると考えられる。

質問調査では、「規範意識」や「自己有用感」は全国値と同率、もしくは上回っており、充実した学校生活を送ることができている。「主体的な学び」、「対話的な学び」は全国値を少し下回る結果となった。また、「国語・算数への関心」、「基本的生活習慣」は全国値を大きく下回る結果となった。

《家庭・地域への働きかけ》

- ・学力調査や個々の学習カルテを通して、児童の実態を把握し補習を行ったり、授業改善を行うと共に、家庭にも情報を提供し、連携を図る。
- ・アクションプランとして、自分の課題に合った自主学習に取り組む機会を設ける。
- ・「江戸川っ子study week」を設定して家庭でもミライシードを活用した復習への取り組みを働きかける。